

「英語が使える日本人」の育成のための行動計画（概要と現状） （平成15年3月策定）

I 「英語が使える日本人」育成の目標

日本人に求められる英語力

【目標】

- ☆国民全体に求められる英語力 「中学校・高等学校を卒業したら英語でコミュニケーションができる」
 - ◎中学校卒業段階：挨拶や応対、身近な暮らしに関わる話題などについて平易なコミュニケーションができる（卒業者の平均が実用英語技能検定（英検）3級程度）
 - ◎高等学校卒業段階：日常的な話題について通常のコミュニケーションができる（卒業者の平均が英検準2級～2級程度）
- ☆専門分野に必要な英語力や国際社会に活躍する人材等に求められる英語力「大学を卒業したら仕事で英語が使える」
 - ◎各大学が、仕事で英語が使える人材を育成する観点から、達成目標を設定

○公立中学校3年生の英語力（平成19年度）

英検3級以上取得者 18.3% 同程度 14.0% 合計 32.4%

○公立高等学校3年生の英語力（平成19年度）

英検準2級以上取得者 10.7% 同程度 19.6% 合計 30.3%

（平成19年度英語教育改善実施状況調査）

II 英語教育改善のためのアクション

1 英語の授業の改善

【目標】

- ☆「英語を使用する活動を積み重ねながらコミュニケーション能力の育成を図る」
 - ◎英語の授業の大半は英語を用いて行い、生徒や学生が英語でコミュニケーションを行う活動を多く取り入れる
 - ◎中・高等学校等の英語の授業で少人数指導や習熟度別指導などを積極的に取り入れる
 - ◎地域に英語教育に関する先進校を形成する

○高校の授業における英語担当教員の英語使用状況（平成22年度）

- ・「オーラルコミュニケーションI」（普通学科）の授業において発話のほとんどを英語で行っている・・・19.6%

- ・「オーラルコミュニケーションⅠ」（普通学科）の授業において発話の半分以上を英語で行っている・・・32.8%

（平成22年度公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査（未定稿））

- 新学習指導要領により平成25年度から高校の英語の授業は、英語で行うことを基本とする。

○英語教育先進校の形成

平成14年度から平成19年度までの全国169校をスーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール（SELHi）として指定

2 英語教員の指導力向上及び指導体制の充実

【目標】

- ◎概ね全ての英語教員が、英語を使用する活動を積み重ねながらコミュニケーション能力の育成を図る授業を行うことのできる英語力（英検準一級、TOEFL550点、TOEIC730点程度以上）及び教授力を備える。
- ◎地域レベルのリーダー的教員を中核として、地域の英語教育の向上を図る。
- ◎中・高等学校の英語の授業に週1回以上はネイティブスピーカーが参加する。
- ◎英語に堪能な地域の人材を積極的に活用する。

○英語教員の英語力

- ・中学校教員 英検準1級等以上取得者 24.2%（平成21年度）※1
- ・高等学校教員 英検準1級等以上取得者 48.9%（平成22年度）※2

※1 平成21年度公立小中学校における教育課程の編成・実施状況調査

※2 平成22年度公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査（未定稿）

○英語の授業へのALTの活用（総授業時数に占める割合）

- ・小学校 67.4%（平成20年度）※1
- ・中学校 24.9%（平成20年度）※1
- ・高等学校（普通学科） 9.1%（平成21年度）※2
- （英語学科） 33.2%（平成21年度）※2

※1 平成21年度公立小中学校における教育課程の編成・実施状況調査

※2 平成22年度公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査（未定稿）

○英語の授業への留学生や英語の堪能な地域人材の活用（総授業時数に占める割合）

- ・小学校 11.8%（平成20年度）※1
- ・中学校 0.2%（平成20年度）※1
- ・高等学校（普通学科） 0.1%（平成21年度）※2
- （英語学科） 0.1%（平成21年度）※2

※1 平成21年度公立小中学校における教育課程の編成・実施状況調査

※2 平成22年度公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査（未定稿）

3 英語学習へのモチベーションの向上

【目標】

- ◎ 毎年10,000人の高校生が海外留学する
- ◎ 授業以外で英語を使う機会が充実する
- ◎ 英語を用いて世界へ情報発信するなど、国際交流を一層活発にする

○ 高校生の海外留学者数（3ヶ月以上）・・・3,190人（平成20年度）

4 入学者選抜等における評価の改善

【目標】

- ◎ 聞く及び話す能力を含むコミュニケーション能力を適切に評価する
- ◎ 大学や高校入試において、リスニングテスト、外部検定試験の活用を促進する

○ 平成18年度から大学入試センター試験でのリスニングテストの導入

5 小学校の英会話活動の支援

【目標】

- ◎ 総合的な学習の時間などにおいて英会話活動を行っている小学校について、その実施回数の3分の1程度は、外国人教員、英語に堪能な者又は中学校等の英語教員による指導を行う。

○ 新学習指導要領により、平成23年度から新たに小学校外国語活動の導入（第5・6学年で週1コマ）

6 国語力の向上

【目標】

- ◎ 英語によるコミュニケーション能力の育成のため、すべての知的活動の基盤となる国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成する。

○ 新学習指導要領では、思考力、判断力、表現力等をはぐぐむため言語活動の充実等を図っている

7 実践的研究の推進

【目標】

- ◎ 英語教育の改善のための取組が着実に推進されるよう、中・高等学校・大学の英語教育に関する実践的研究を総合的に実施する（平成15年秋までに一定の結論を得る）